

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第26週（6月22日～6月28日）

今週のコメント

～ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ 増加の兆し」

第26週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,416例であり、前週比3.2%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.77、3.85、1.78、1.22、0.63である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比12%減の863例で、中河内7.63、南河内6.27、北河内6.14、大阪市西部5.20、大阪市南部4.82であった。

手足口病は63%増の697例で、北河内9.82、大阪市北部6.31、大阪市東部4.36である。

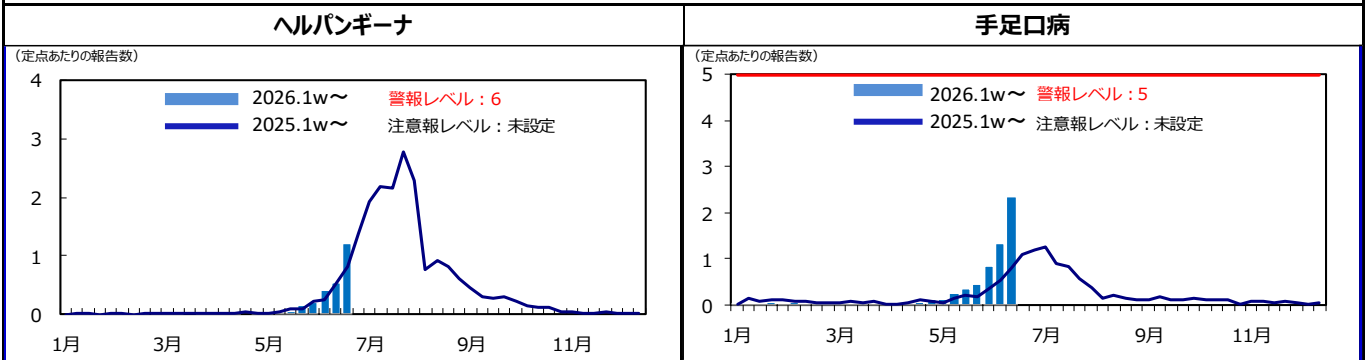
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は30%減の323例で、北河内4.00、中河内2.89、南河内1.93であった。

ヘルパンギーナは120%増の220例で、泉州2.65、北河内2.32、大阪市北部1.92である。

咽頭結膜熱は24%減の114例で、中河内1.63、北河内0.95、南河内0.93であった。

新型コロナウイルス感染症は10%増の242例で、定点あたり報告数は0.85である。北河内1.97、南河内1.26、中河内1.00、泉州0.94、大阪市西部0.80であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は8%減の9,226例で、定点あたり報告数は32.37である。北河内45.36、南河内40.87、中河内39.28、大阪市北部34.80、堺市32.44であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第26週6月22日～6月28日）

第26週 の順位	第25週 の順位	感染症	2026年 第26週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第26週の 定点あたり 報告数	2026年第26週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	4.77	12%減	5.39	1歳_17%
2	3	手足口病	3.85	63%増	1.11	1歳_53%
3	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.78	30%減	1.94	5歳_15%
4	5	ヘルパンギーナ	1.22	120%増	0.82	1歳_44%
5	4	咽頭結膜熱	0.63	24%減	0.88	1歳_44%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.85	10%増	1.22	10-19歳_33%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	32.37	8%減	35.38	1-4歳_45%

各疾患の詳細は、[大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）](#)をご覧ください。

第26週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です。

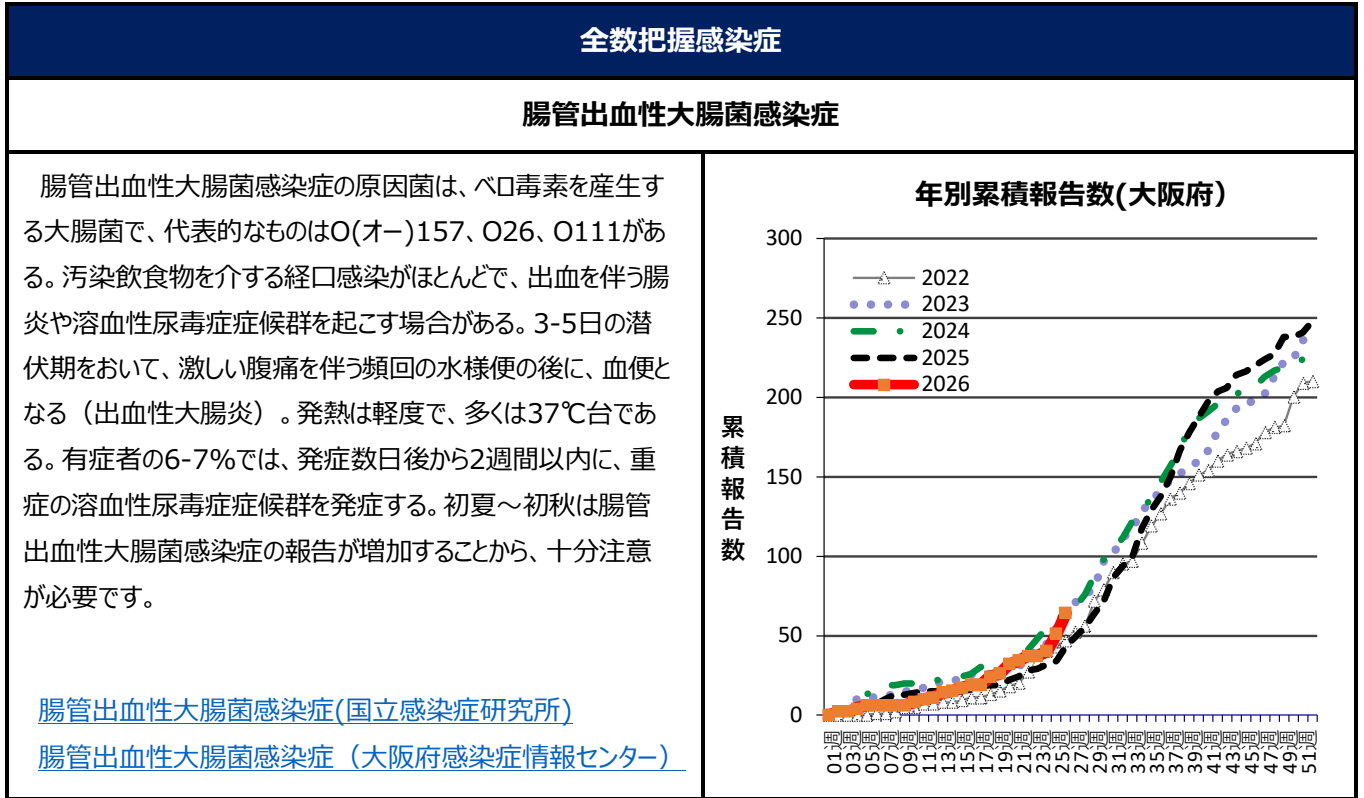


表2. 大阪府全数報告数(2026年 第26週6月22日～6月28日)

注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積
											報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	13								13	64
4類感染症	レジオネラ症	4	1			1				2	65
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2					1			1	43
	後天性免疫不全症候群	1								1	38
	侵襲性肺炎球菌感染症	2							1	1	145
	水痘(入院例)	3							1	2	37
	多剤耐性緑膿菌感染症	1			1						21
	梅毒	14	2			2				10	621
	百日咳	2				1			1		169
結核 (2026年4月分)	結核 新登録患者数: 36名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 (内 肺・喀痰塗抹陽性 21名) (府内累積報告数 290名、内 肺・喀痰塗抹陽性 93名)									

(2026年6月30日 集計分)